

2022 年度 授業評価アンケート報告書

京都大学大学院 教育学研究科
2023 年度 自己点検・評価委員会

I. はじめに

この報告書は、2022 年度前期および後期に開講された教育学部・教育学研究科の授業科目に対する「授業評価アンケート」の内容および結果の概要を述べたものです。本学部・研究科における授業評価は、2005 年度から実施され、さまざまな検討と改訂を繰り返しながら、現在まで継続的に実施されています。以前は、前期・後期にそれぞれ 200 以上開講されている科目のなかから、講義・演習・ゼミナール等の授業タイプ別にいくつかの科目をピックアップして評価対象としていましたが、2014 年度からは、本学部・研究科が提供するすべての科目を評価の対象とし、もうじき 10 年を迎えようとしています。

アンケートの内容は、開始当初のものと現在のものでは大きく異なりますが、本学部・研究科における授業評価アンケート実施に関する基本的な考え方は変わっていません。第一に、授業評価一般がそうであるように、本授業評価は、授業の改善を目的としたものです。しかし、本学部・研究科の研究の対象が「教育」であることから、本学部・研究科の学部生・大学院生による授業評価には、もう一つ別の期待が加わることになります。それは、学部生・大学院生が、評価とは何か、その対象となる教育や授業とは何かを自ら考え反省し、その過程で評価の力を涵養すること、そして、そのように培われた評価の力をもってなされた評価によって、教員が自らの教育について理論と実践のあり方を「再形成」していくという期待です。このことは、2005 年度の授業評価報告書に記されたところですが、現在もなお引き継がれています。

2022 年度の授業評価アンケートは、基本的に 2021 年度同様、前年度のものを踏襲しています。「シラバスの活用」と「学習時間」に重点を置くとともに、上記の趣旨をふまえて、「学習の達成度」に関する自己評価を求めている点は同じです。

Ⅱ. 授業評価アンケートの実施方法と内容

§ 2.1 実施授業科目および対象者

授業科目：教育学部・教育学研究科が提供するすべての科目（下表「科目数」）

対象者： 上記授業に出席した学生・大学院生・科目等履修生（下表「履修者数」「回答者数」「回答率」 ※人数は延べ人数）

	学部前期	学部後期	大学院前期	大学院後期
科目数	107	134	91	96
履修者数	2333	2676	582	667
回答者数	432	376	60	74
回答率（%）	18.5	14.1	10.3	11.1

§ 2.2 実施日程

前期：2022 年 7 月 7 日（木） ～ 9 月 15 日（木）

後期：2023 年 1 月 5 日（木） ～ 2 月 15 日（水）

§ 2.3 実施手順

1. 授業アンケートシステム KULIQS による回答を求めた。
2. 原則として、最終授業日または試験時に教室等で実施した（諸事情により教室等で実施できなかった場合、授業連絡メールで回答を促した）。
3. 「個人が特定されないこと」、「成績評価に影響しないこと」を伝えた後、以下の教示文を参考に実施した。

《教示文》

アンケートシステムから授業評価アンケートの回答をお願いいたします。

科目名は「●●●●」（※一つの授業で複数の科目名がある場合は、すべて記載してください）です。

《回答方法》

全学生共通ポータルへログインし、アンケートシステム ⇒ 授業アンケートと進んでいただき、該当科目について、ご回答ください。

全学生共通ポータル <https://student.iimc.kyoto-u.ac.jp/>

本アンケートは、授業について受講者の皆さんからの回答を得て、授業・教育環境の改善に役立てようとするためのものです。

本アンケートは無記名方式であり、“誰がどのように答えた”などは特定されません。また、回答内容があなたの成績などの評価に影響することは一切ありませんので、率直なご意見をお願いいたします。

§ 2.4 設問の概要

授業評価アンケートには以下の5つの区分があった：1. シラバスの活用状況 2. 学習時間 3. 学習の達成度 4. 授業の満足度 5. 今後に向けて

5つ目の「今後に向けて」は、1) 勉強／参考になった点や自分自身の今後の課題、2) 改善点、授業環境や教室設備などに関する要望について自由記述を求めた。

これについては担当教員に個別にフィードバックを行っているため、本項および「3. 授業アンケートの結果」には提示しない。以下では、5つ目を除いた4つの区分の内容について順に説明する。

1. シラバスの活用状況について

- 1) シラバスを活用したかどうか、活用した場合には、どのような用途だったのか選択肢によって回答。
- 2) シラバスの情報は十分なものだったか、十分でなかった場合には、どのような理由だったのか選択肢によって回答。

2. 学習時間について

- 1) 当該科目の出席割合を選択肢によって回答。
- 2) 当該科目に係る授業外学習（予習・復習、宿題・課題等）の時間を1週間当たりの平均で回答（30分単位で記載）。

3. 学習の達成度について

- 1) 当該科目の到達目標に照らして達成できたかどうか、自己評価を選択肢によって回答。
- 2) 学習の達成度が「達成できなかった」又は「やや達成できなかった」の場合、達成できなかった理由を、選択肢により回答。
- 3) 効果的だった学習活動についての自由記述。

4. 授業全般の満足度について

- 1) 当該授業におけるよかった点について選択肢によって回答。
- 2) 当該科目の全体として満足度を選択肢によって回答。

§ 2.5 設問の詳細

実際の設問番号とその内容は以下の通り。

0. 所属・学年について

Q01. ～ Q04. 所属学部／研究科、学年

1. シラバスの活用状況について

(オンライン授業の導入に伴い、文書・口頭によりシラバス情報の変更が周知された場合には、変更後の情報を含めて回答してください)

Q05. シラバスを活用（使用）しましたか。

- ①はい
- ②「いいえ」又は「どちらともいえない」

Q06. [Q. 05 で「はい」と答えた場合] 理由を以下より選択してください。(複数選択可)

- ㊦科目選択・履修登録に活用
- ㊧予習・復習に活用
- ㊨受講にあたり授業中などに活用
- ㊩試験・レポートに活用
- ㊪その他

Q07. シラバスの情報は十分なものでしたか。（シラバス活用の有無等に係わらず回答してください。）

- ①はい
- ②いいえ

Q08. [Q. 07 で「いいえ」と答えた場合] 何が不十分と思ったかを以下より選択してください。（複数選択可）

- ㊲「授業の概要・目的」の情報
- ㊳「到達目標」の情報
- ㊴「授業計画と内容」の情報
- ㊵「履修要件」の情報
- ㊶「成績評価の方法・観点及び達成度」の情報
- ㊷「教科書」及び「参考書等」の情報
- ㊸「その他」の情報

Q09. シラバスに記載してほしかった情報等があれば自由に記述してください。

2. 学習時間について

Q10. 当該科目の授業出席回数を記載してください。

（注）教育学部の授業回数は、半期で授業 14 回、試験 1 回、フィードバック 1 回です。

集中講義はコマ数を回数として 1 ～15 回で回答してください。

Q11. 授業外学習時間について

当該科目に係る予習・復習、宿題・課題等を行った合計の時間（1 週間当たりの平均値）を記載してください。「授業に出席した時間」と「授業外学習時間」の区別がしづらい場合には、1 週間当たり 1.5 時間分を「授業に出席した時間」、それ以外を「授業外学習時間」とみなしてください。

約 . 時間 （注）30 分単位で記載願います。

3. 学習の達成度について

Q12. この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より 1 つ選択してください。

(教育学部シラバス) <https://www.k.kyoto-u.ac.jp/student/u/ed/syllabus/top>

(教育学研究科シラバス) <https://www.k.kyotou.ac.jp/student/g/ed/syllabus/top>

- ①十分達成 (目安: 授業の達成目標の概ね 9 割以上達成)
- ②ほぼ達成 (目安: 授業の達成目標の概ね 8 割以上～9 割未満達成)
- ③やや達成できなかった (目安: 授業の達成目標の概ね 6 割以上～8 割未満達成)
- ④達成できなかった (目安: 授業の達成目標の概ね 6 割未満達成)
- ⑤どちらともいえない (判断できない)

Q13. 学習の達成度が「達成できなかった」又は「やや達成できなかった」の場合は、達成できなかった理由を、以下より選択してください。(複数選択可)

- ①授業の進度が速かったため
- ②予習・復習に十分時間を取ることができなかったため
- ③説明がわかりにくかったため
- ④その他 () のため
- ⑤特になし

Q14. 効果的だった学習活動(例: 講義、予習・復習又はグループ討論など)があれば、自由に記載してください。

4. 授業全般の満足度について

Q15. この授業でよかった点を選択してください。(複数選択可)

- ①授業に意欲的に参加できる工夫がされていた。
- ②授業に対する教員の熱意が感じられた。
- ③授業は体系的であり、よくまとまっていた。
- ④授業はシラバスに沿って授業が行われていた。
- ⑤教員の声はよく聞き取れた。
- ⑥板書の文字や機器による提示が見やすかった。

- ⑦教材（教科書・配付資料等）は適切だった。
- ⑧学生の理解度や反応に配慮して授業が進められていた。
- ⑨自主的な学習を促すための工夫や補足説明があった。
- ⑩この授業を通じて、知的な問題に取り組む力が向上した。
- ⑪その他（ ）

Q16. この授業は全体として満足できる内容でしたか。

- ①十分満足
- ②ほぼ満足
- ③どちらともいえない（判断できない）
- ④やや不満
- ⑤不満

5. 今後に向けて

Q17. この授業を振り返って、とくに勉強になった・参考になったという点や自分自身の今後の課題などがあれば書いてください。

Q18. 授業の内容・方法などについて改善してほしい点、その他、授業環境や教室設備などについて要望があれば書いてください。

Ⅲ. 授業評価アンケートの結果

§ 3.1 2022 年度の結果

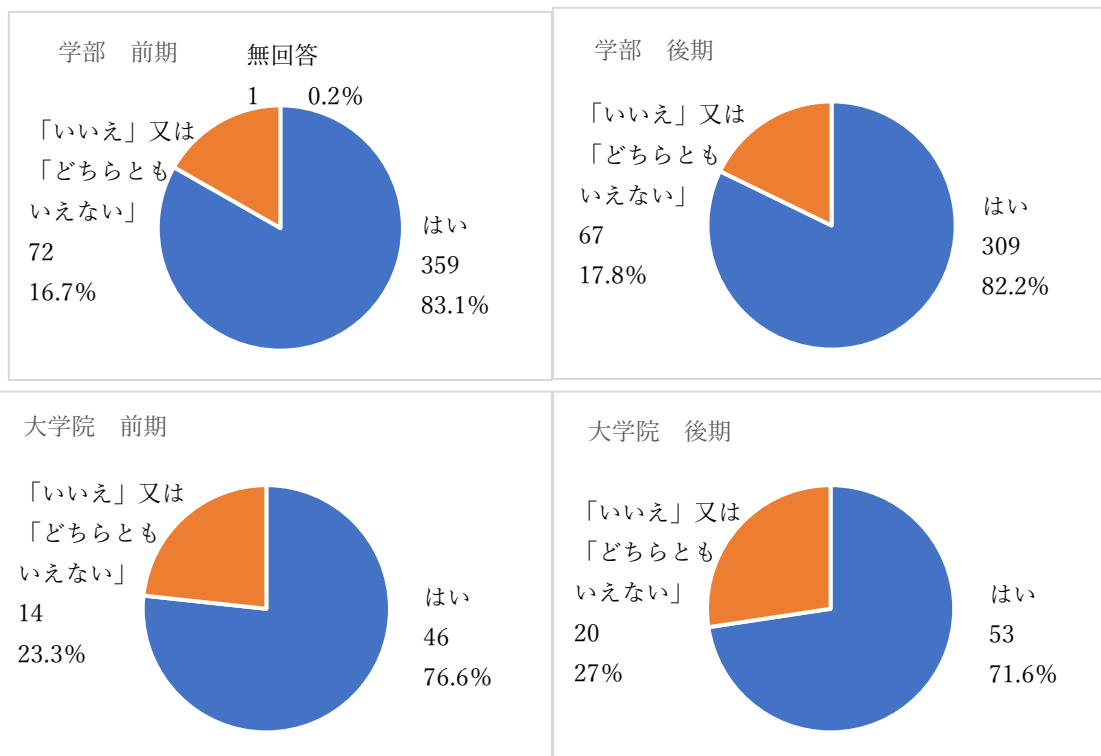
以下では、2022 年度の授業評価アンケートの結果を設問ごとに報告する。自由記述を求めた設問（Q. 09、Q. 14、Q. 17、Q. 18）については、担当教員にのみフィードバックを行い、ここには記載していない。集計は、比較しやすいよう、開講期別に、学部の授業と大学院の授業に分けて行った。

なお、2022 年度の回答率（履修者総数÷回答者総数）は約 15%であり、前年度より 5 ポイント減少した。アンケートに回答していない履修者が前年度以上に多く存在する。下記に記載した結果については、そのことを考慮した上で解釈を行う必要がある。

Q05. シラバスを活用（使用）しましたか。

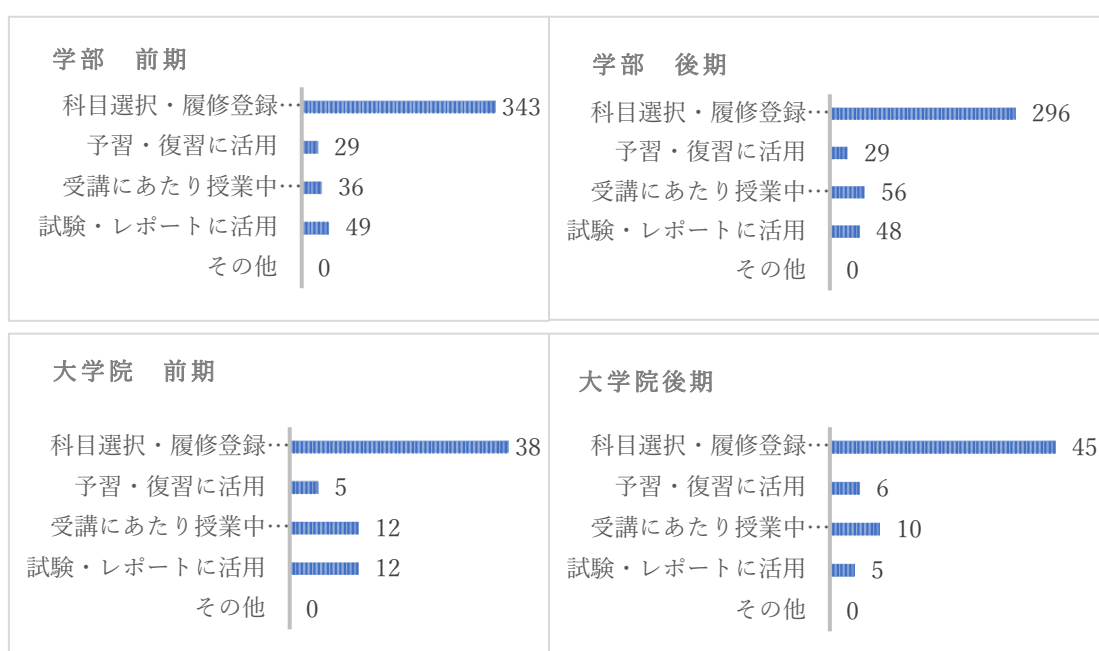
① はい

② 「いいえ」又は「どちらともいえない」



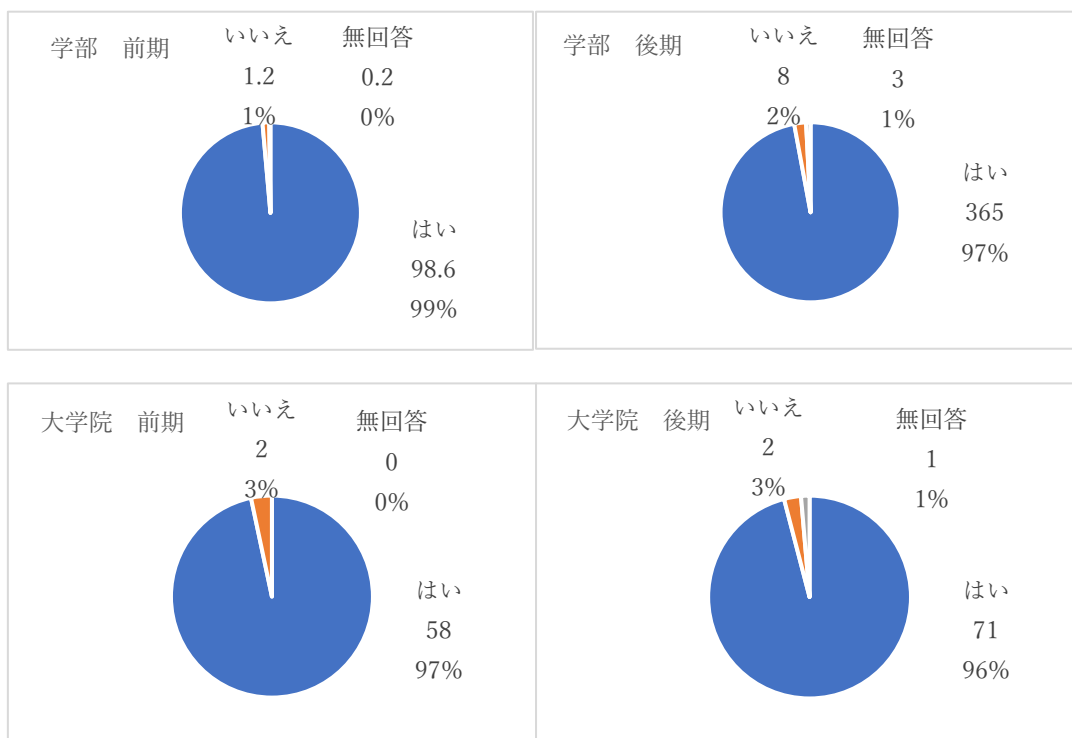
Q06. [Q. 05 で「はい」と答えた場合] 理由を以下より選択してください。（複数選択可）。

- ㉞ 科目選択・履修登録に活用
- ㉟ 予習・復習に活用
- ㊱ 受講にあたり授業中などに活用
- ㊲ 試験・レポートに活用
- ㊳ その他（理由： ）に活用



Q07. シラバスの情報は十分なものでしたか。（シラバス活用の有無等に係わらず回答してください。）

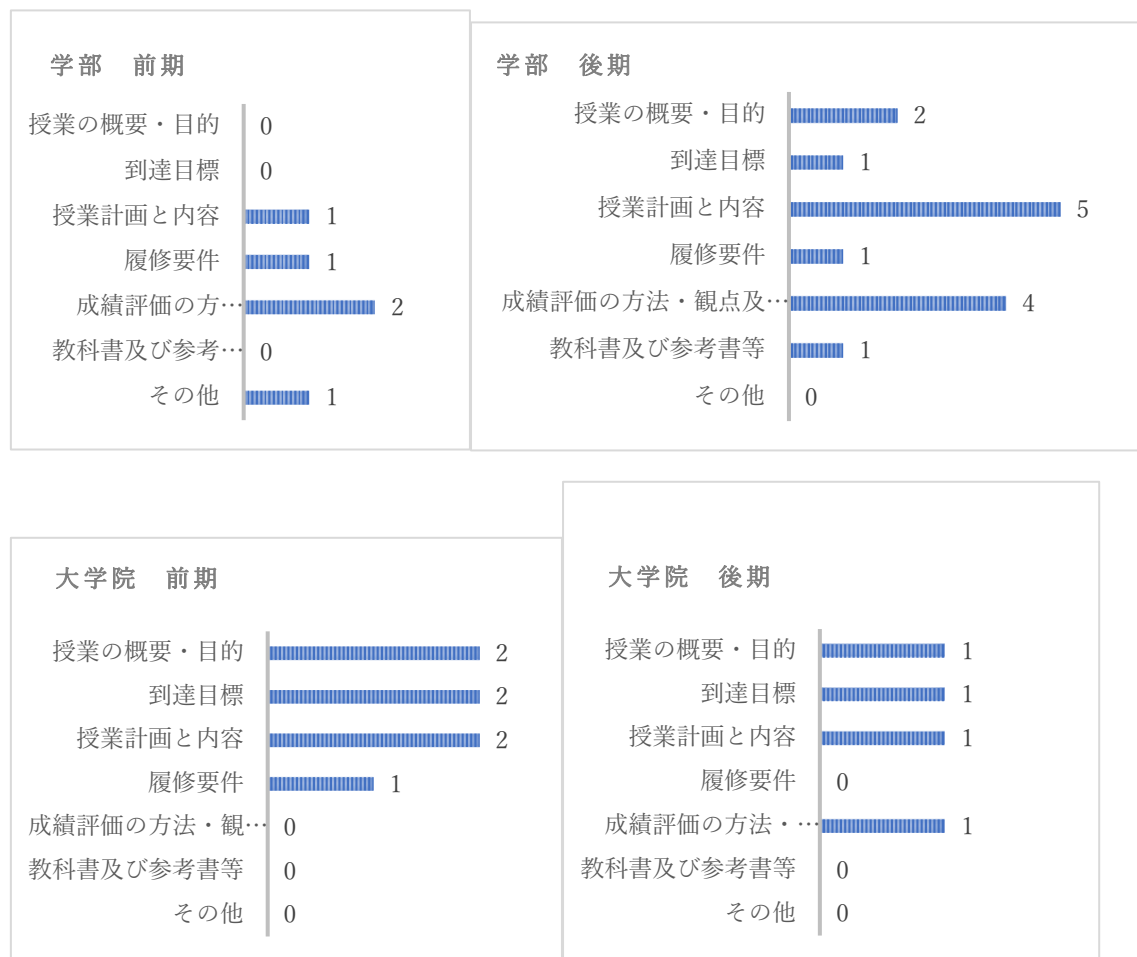
- ① はい
- ② いいえ



Q08. [Q07 で「いいえ」を選んだ場合] 何が不十分と思ったかを以下より選択してください。（複数選択可）

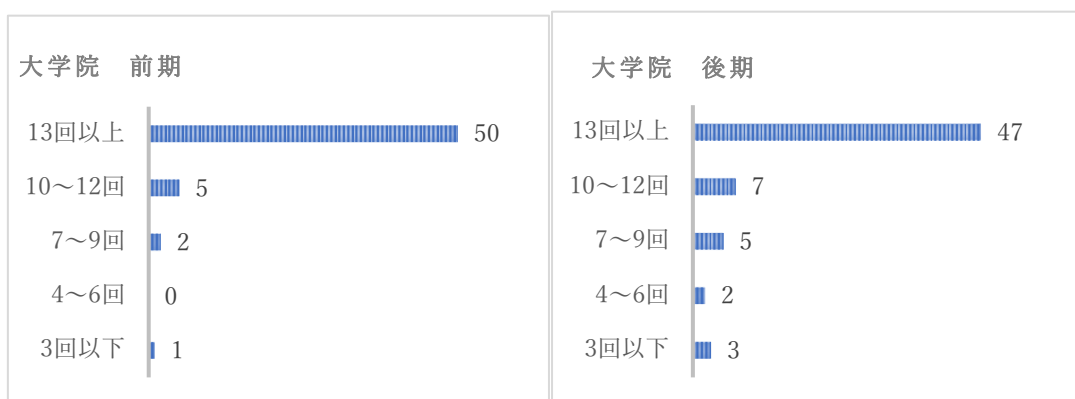
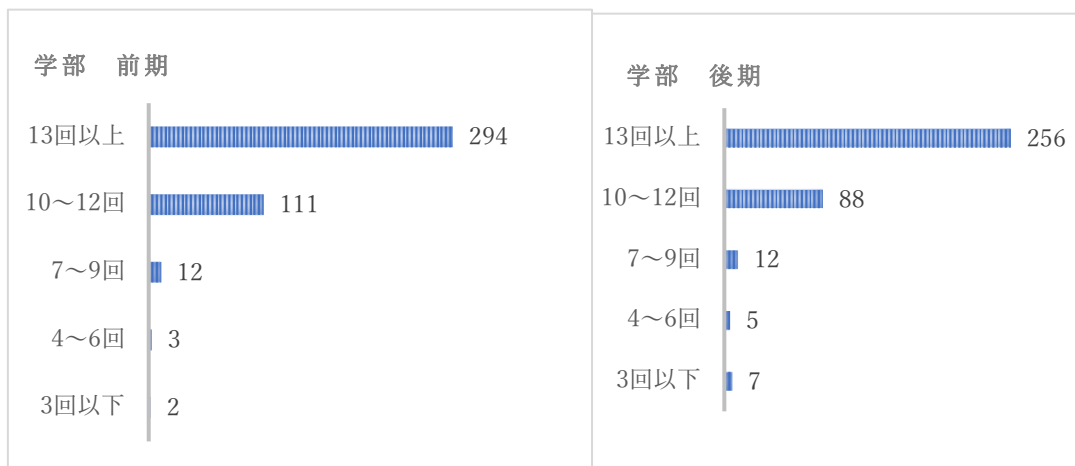
- ㉞ 「授業の概要・目的」の情報
- ㉟ 「到達目標」の情報
- ㊱ 「授業計画と内容」の情報
- ㊲ 「履修要件」の情報
- ㊳ 「成績評価の方法・観点及び達成度」の情報
- ㊴ 「教科書」及び「参考書等」の情報
- ㊵ 「その他」の情報

※記載してほしかった情報等があれば自由に記述してください。



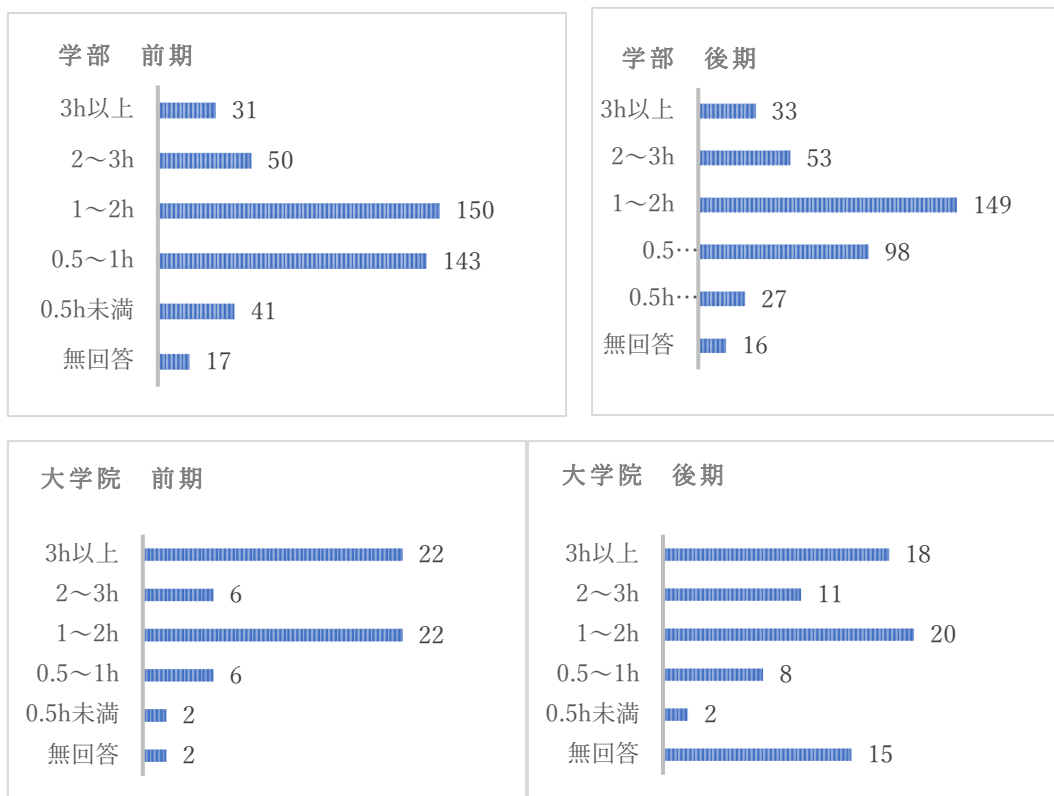
Q10. 当該科目の授業に出席した割合（％）を選択してください。

（注）教育学部の授業回数は、半期で授業 14 回、試験 1 回、フィードバック 1 回です。集中講義はコマ数を回数として 1 ～15 回で回答してください。



Q11. 当該科目に係る予習・復習、宿題・課題等を行った合計の時間（1週間当たりの平均値）を記載してください。「授業に出席した時間」と「授業外学習時間」の区別がしづらい場合には、1週間当たり 1.5 時間分を「授業に出席した時間」、それ以外を「授業外学習時間」とみなしてください。

約 . 時間 （注）30 分単位で記載願います。

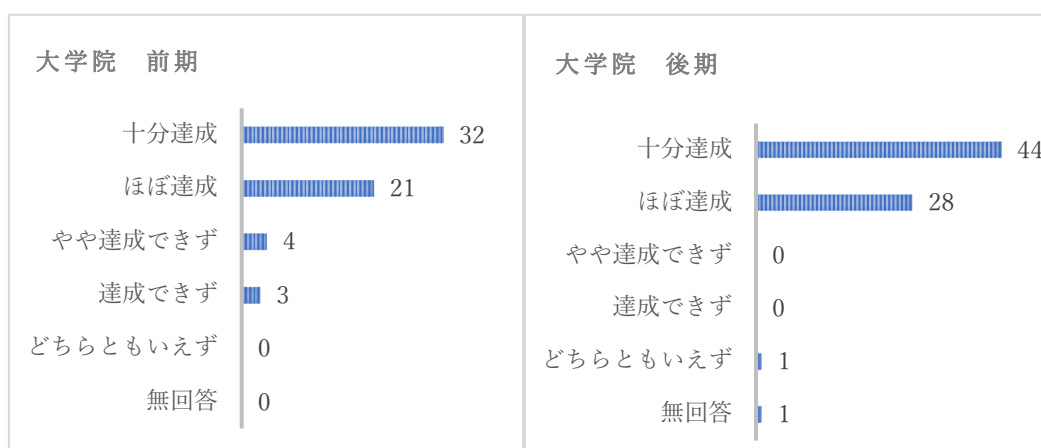
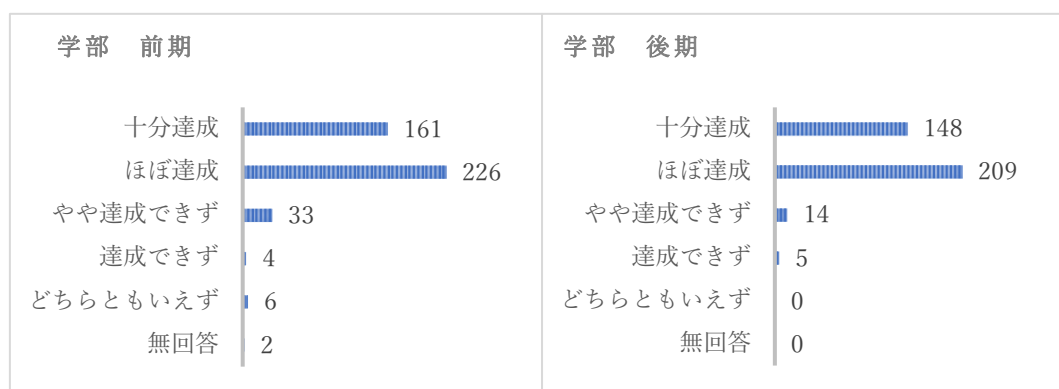


Q12. この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より 1 つ選択してください。

(教育学部シラバス) <https://www.k.kyoto-u.ac.jp/student/u/ed/syllabus/top>

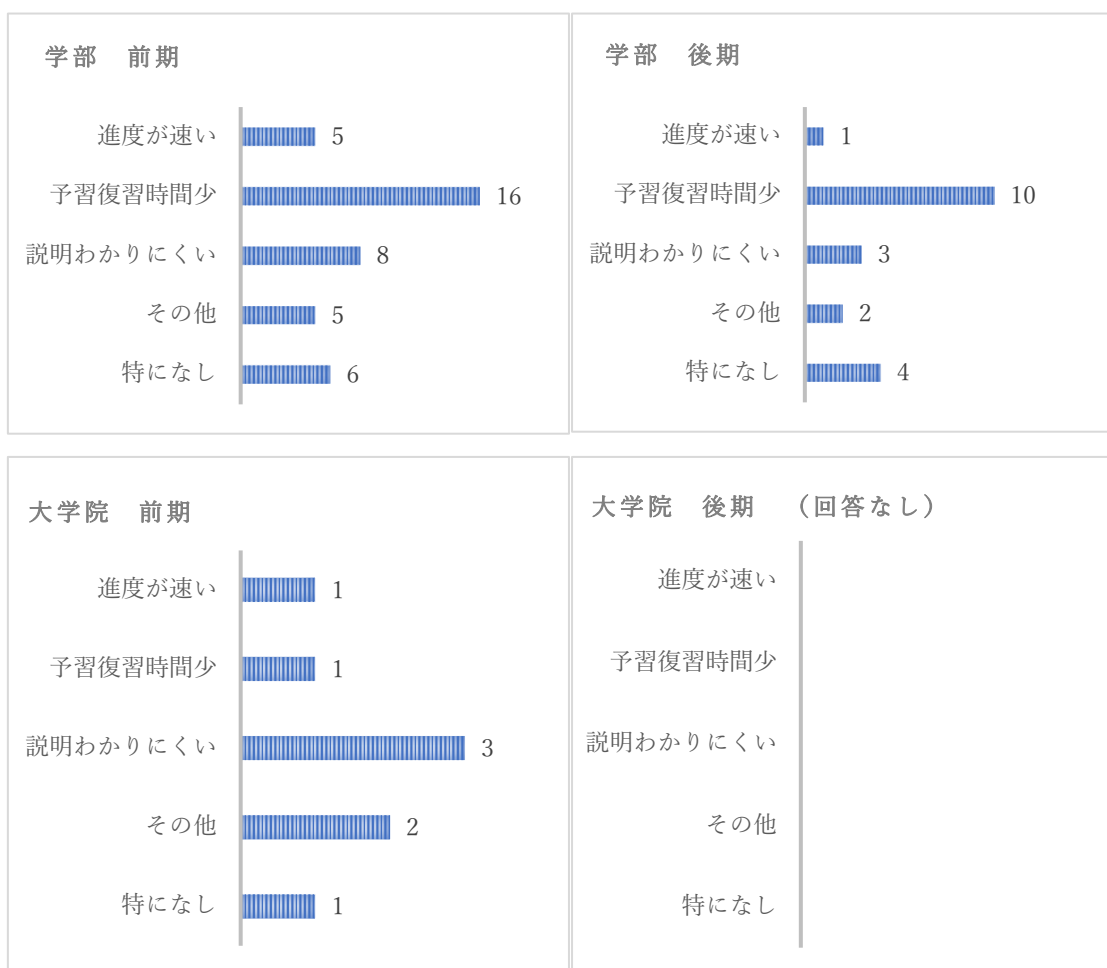
(教育学研究科シラバス) <https://www.k.kyoto-u.ac.jp/student/g/ed/syllabus/top>

- ① 十分達成 (目安: 授業の達成目標の概ね 9 割以上達成)
- ② ほぼ達成 (目安: 授業の達成目標の概ね 8 割以上～9 割未満達成)
- ③ やや達成できなかった (目安: 授業の達成目標の概ね 6 割以上～8 割未満達成)
- ④ 達成できなかった (目安: 授業の達成目標の概ね 6 割未満達成)
- ⑤ どちらともいえない(判断できない)



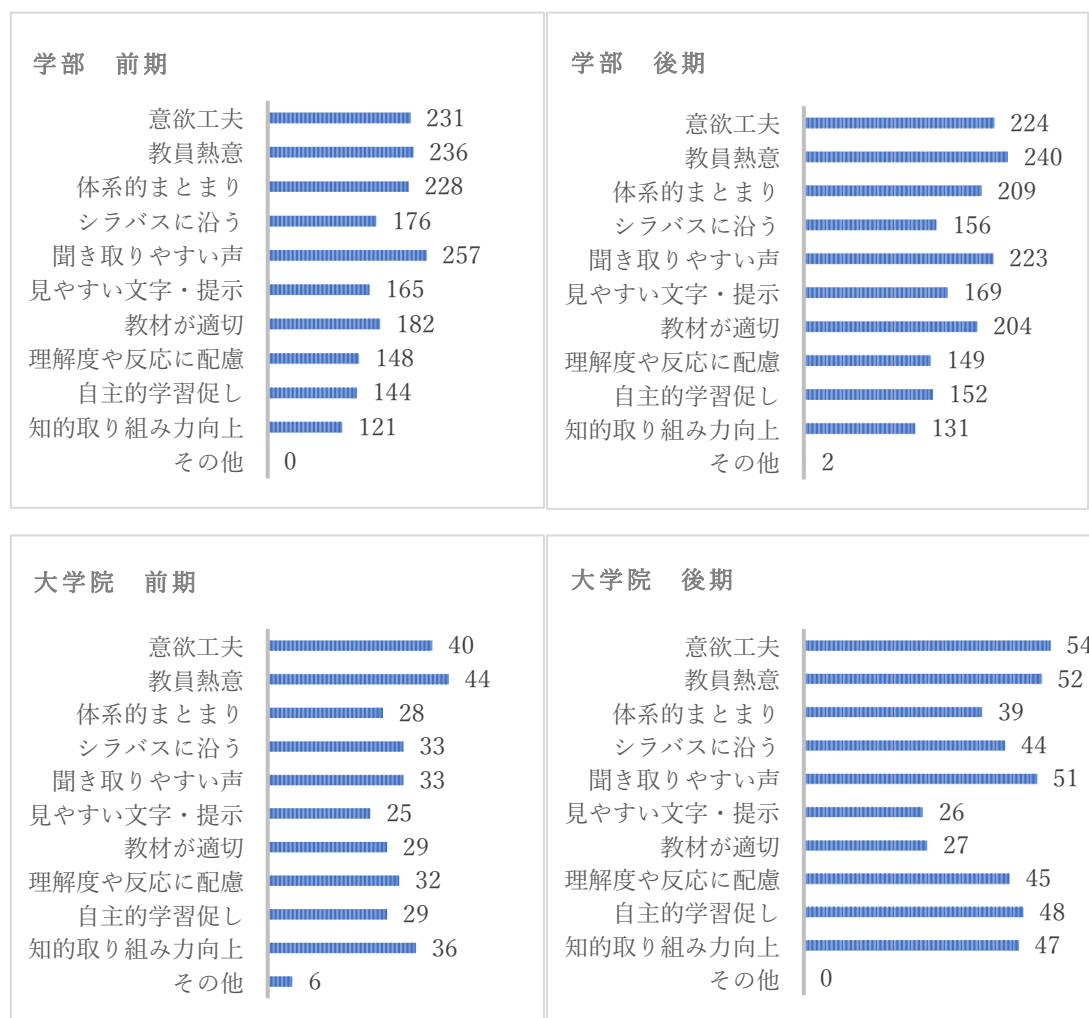
Q13. 学習の達成度が「達成できなかった」又は「やや達成できなかった」の場合は、達成できなかった理由を、以下より選択してください。（複数選択可）

- ① 授業の進度が速かったため
- ② 予習・復習に十分時間を取ることができなかったため
- ③ 説明がわかりにくかったため
- ④ その他 （ ） のため
- ⑤ 特になし



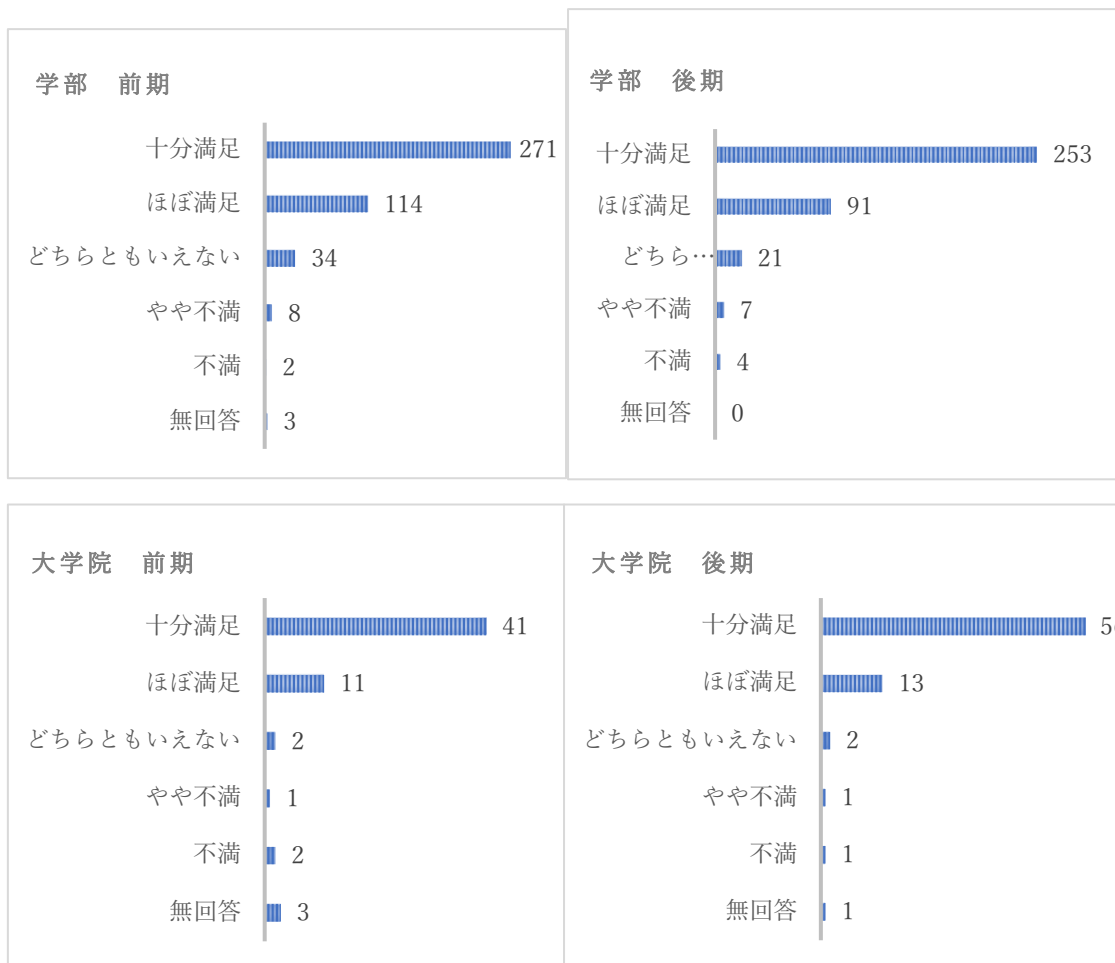
Q15. この授業でよかった点を選択してください。（複数選択可）

- ① 授業に意欲的に参加できる工夫がされていた。
- ② 授業に対する教員の熱意が感じられた。
- ③ 授業は体系的であり、よくまとまっていた。
- ④ 授業はシラバスに沿って授業が行われていた。
- ⑤ 教員の声はよく聞き取れた。
- ⑥ 板書の文字や機器による提示が見やすかった。
- ⑦ 教材（教科書・配付資料等）は適切だった。
- ⑧ 学生の理解度や反応に配慮して授業が進められていた。
- ⑨ 自主的な学習を促すための工夫や補足説明があった。
- ⑩ この授業を通じて、知的な問題に取り組む力が向上した。
- ⑪ その他（ ）



Q16. この授業は全体として満足できる内容でしたか。

- ① 十分満足
- ② ほぼ満足
- ③ どちらともいえない(判断できない)
- ④ やや不満
- ⑤ 不満



§ 3.2 2021 年度と 2022 年度の比較

以下に、重要かつ年度間の比較に意義があると思われる 4 項目（Q10、Q11、Q12、Q16）について 2021 年度と 2022 年度の結果を示す。上側が回答数、下側は百分率。

出席割合「Q10. 当該科目の授業に出席した割合（％）を選択してください。」



授業時間外学習時間「Q11. 当該科目に係る予習・復習、宿題・課題等を行った合計の時間（1 週間当たりの平均値）を記載してください。」



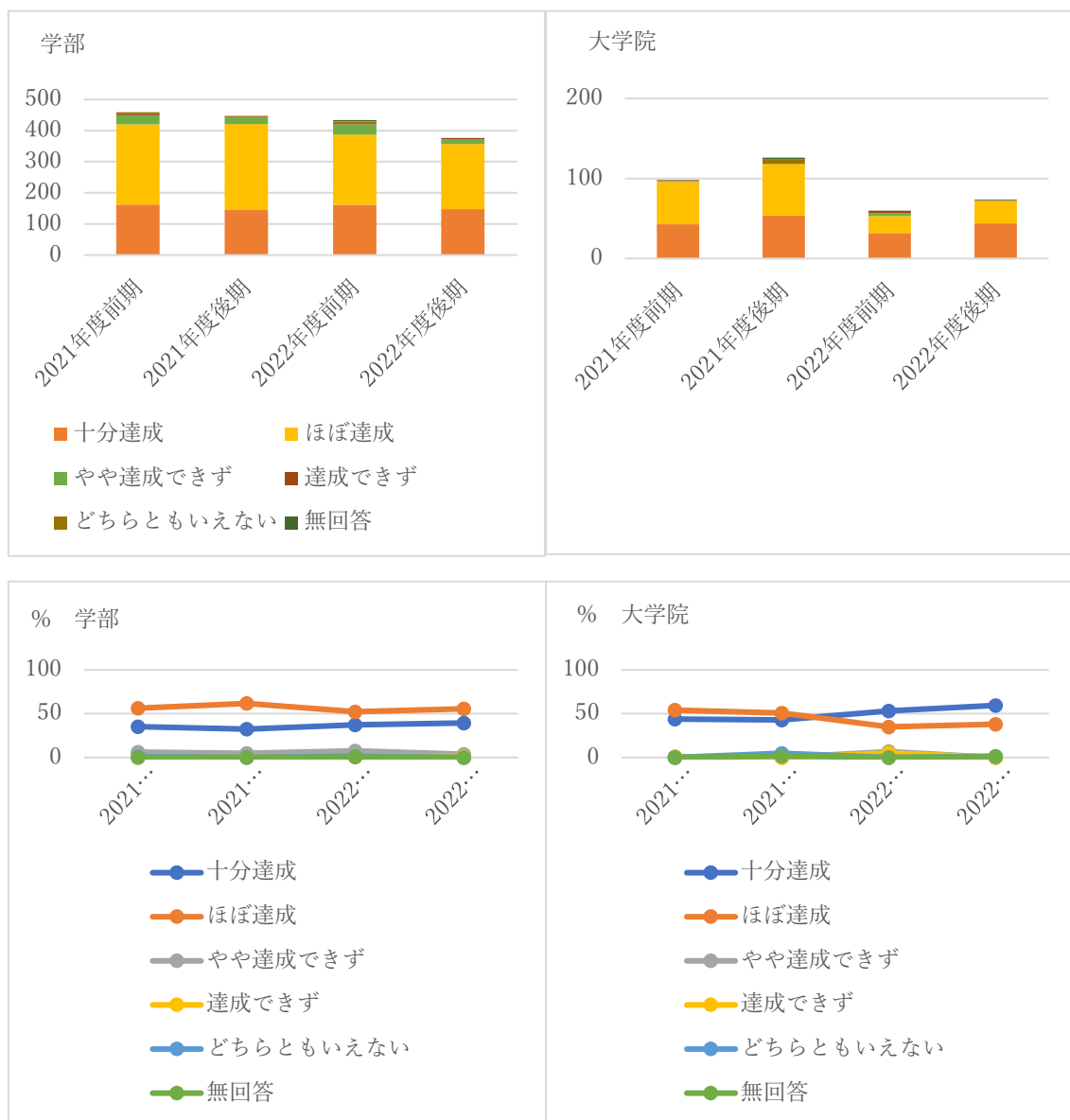
% 学部

期間	3h以上	2~3h	1~2h	0.5~1h	0.5h未満	無回答
2021年度前期	10	22	32	30	4	2
2021年度後期	5	17	37	32	4	2
2022年度前期	7	11	34	33	4	3
2022年度後期	8	14	39	26	6	4

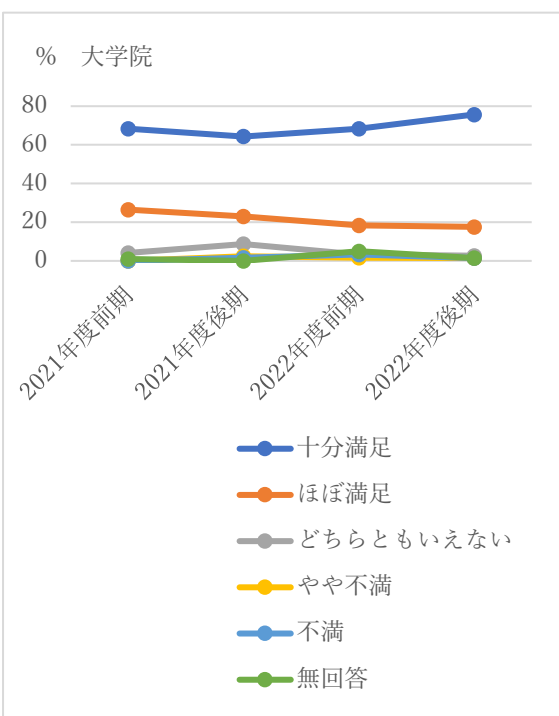
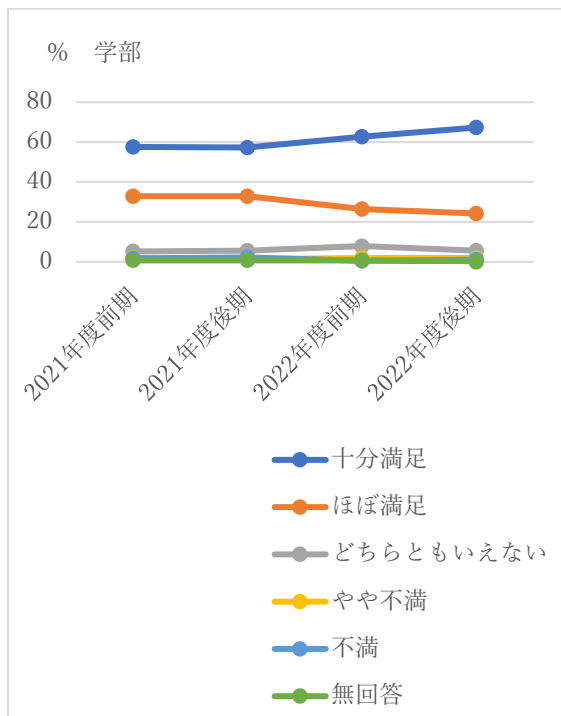
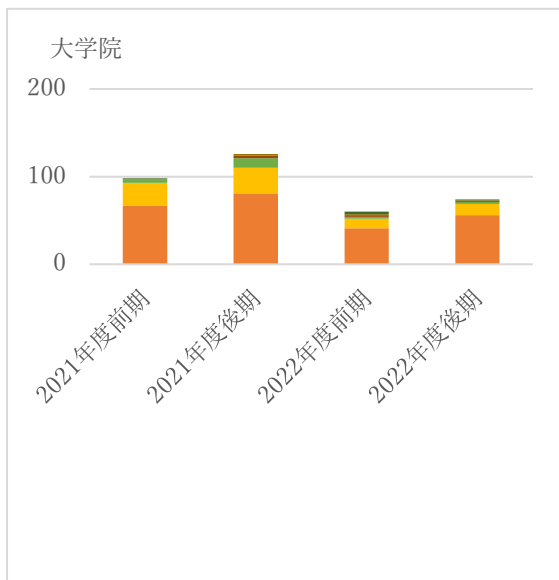
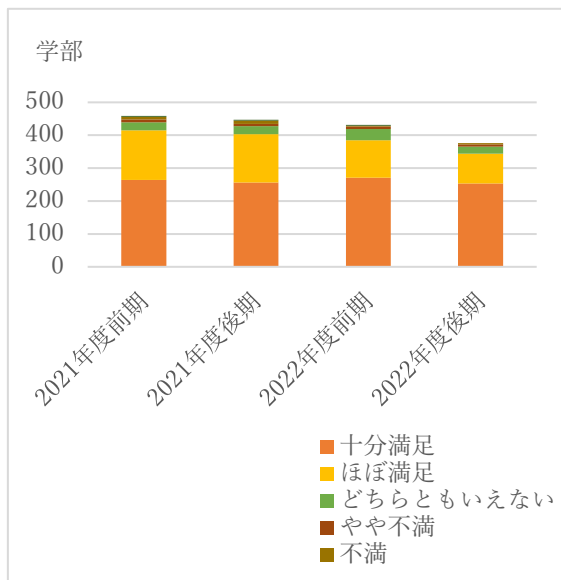
% 大学院

期間	3h以上	2~3h	1~2h	0.5~1h	0.5h未満	無回答
2021年度前期	18	29	31	17	2	2
2021年度後期	18	19	33	16	8	6
2022年度前期	37	10	37	10	3	3
2022年度後期	25	15	27	10	2	20

達成度「Q12. この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。」



満足度「Q16. この授業は全体として満足できる内容でしたか。」



IV. おわりに

本報告は、教育学部・教育学研究科において 2022 年度に開講された全科目を対象に実施した授業評価アンケートの結果です（一部、2021 年度の結果を比較のために提示いたします）。授業アンケートシステム KULIQS（クリックス）を用いて実施された 8 回目の調査であり、調査項目の提示方法や回答方法などは、前年度までの形を踏襲しています。事務局教職教務掛の皆さまには、調査の作成から実施、集計に至るまで、さまざまな局面でご支援をいただきました。あらためて心から御礼を申し上げます。

アンケート結果の基本的な傾向は従来と概ね同様でしたが、2021 年度と比較して次のような変化がみられました。1) 学部生は、大部分（約 83%）がシラバスを利用しその情報が十分であったと答え、前年度を数ポイント上回っています。大学院生の利用は約 74%で、同様に前年度を数ポイント上回りました。2) 出席が 12 回以上（80%以上）の割合は、学部生は 2020・2021 年度の 90%より減って 84%程度、大学院生は変わらず 100%近くという結果でした。3) 授業の目標を「十分達成」「ほぼ達成」と回答した学部生の割合は、2021 年度に続き、2022 年度も 90%を超えています。大学院では 2021 年度に前年を上回る約 96%となったところ、2022 年度はさらに約 99%へと上昇しました。4) 授業に「十分満足」「ほぼ満足」と回答した割合は、学部では 2021 年度と同じく 2022 年度も約 90%、大学院では 2021 年度は約 91%、2022 年度は約 93%で若干上昇しています。5) 「予習・復習などの授業外学習時間」について「1 時間以上」の回答が、学部では 2020・2021 年度の約 62%に対し 2022 年度は約 57%です。一方、大学院では、2020 年度は約 72%、2021 年度は約 69%、2022 年度は 74%と上下しています。

種々の変化の要因は、一言では断定できません。とはいえ、ここ数年間の授業形態の変化の影響は考慮しなくてはなりません。具体的には、コロナ問題を背景とした 2020 年度におけるオンライン化の導入が、2021 年度からは、対面授業を原則とした上でオンラインを並行的に活用する方向へと切り替わり、2022 年度は、さらに対面授業が復活しました。学部における出席率の減少は、対面授業の復活を背景としている可能性があります。学部における予習・復習時間の減少も、前年度までは授業のオンライン化が予習・復習時間の増加を招いていたところが、旧に復した可能性があります。一方で大学院は、出席率も予習・復習時間も、オンラインか対面かという問題とそれほど関係していないようです。大学院における達成度の上昇傾向、高い数値での満足度の横ばいについても、オンライン化問題との関係はみえにくいところです。

学生にとっても教員にとっても未曾有の体験となった「コロナ問題」による「混乱」の時期は過ぎ、大学も落ち着きを取り戻しつつあります。しかし、授業方法や受講の形態には、不可逆的な変化も生じました。教育学研究科においては、この変化についての主体的な研究も進められています。さらなる授業の充実のため、今後も授業評価アンケートを継続的に実施し、活用できればと考えます。

以上のように述べてはきましたが、授業評価アンケートの回答者が、2021年度の約20%から2022年度は約15%へと2割以上の低下をみたことに、まず目を向けねばならないでしょう。アンケートへの回答を精力的に呼びかけてなお、次年度以降もこの減少傾向が続くのであれば、現在のような方式による授業アンケートの有効性と、学生の声をいかに聴くか、そしてそれをいかに授業に反映させるかを、今後、根本的に検討することが必要と考えています。

2023年度 教育学研究科自己点検 ・評価委員会

田中智子・楠見孝・服部憲児・南部広孝